

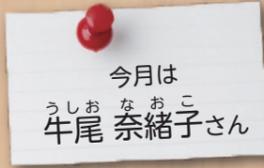
つむぐ通信

シリーズ連載 その83

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

【江田島市地域おこし協力隊】

- 体験型観光推進員 塚田 忠則
- プロモーション推進員 牛尾奈緒子
- 空き家活用ディレクター 蛇草 孝介
- 国際交流支援員 大方 芳恵
- えたじま里海ナビゲーター 守本 怜矢



facebookで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊



毎月リレー形式で、江田島市内で活躍する人やお店を紹介！

ETAJIMA GoON!

Vol.23

interview ———— オリーブ丸ごと体験を楽しんでほしい。

江田島市で初のアグリツーリズム体験施設を作ろうと奮闘している、瀬戸内いとなみ舎代表の峰尾亮平さん。地域おこし協力隊として着任してから7年、『動く』タイミングを迎えた峰尾さんが挑戦する、今後のオリーブ事業とは。

いとなみ舎の挑戦「アグリツーリズム」

能美町にある旧給食センターで瀬戸内いとなみ舎の代表として活動する峰尾さんは、2月下旬、『アグリツーリズム』のモニターツアーを実施した。今後、定期的にツアーを行うため、現在、施設を改装中だ。「これまでオリーブの食品製造工場として使用していたのですが、ここでツアー参加者にオリーブを使った食事を提供したり、みんなで一緒に体験活動ができるような場所に改装しています」

アグリツーリズムとは、ヨーロッパ発祥の休暇の過ごし方のひとつ。都市部に住む人たちが、地方の農場などに滞在して、農業体験や文化を楽しむ観光を指す。「私が実際にイタリアでアグリツーリズムを体験した時、とても楽しくて、ずっと印象に残っていました。今回、ありがたいことに旅行会社からお声がけを頂いたので、印象に残っていたこの体験を実際にやってみよう、挑戦してみようと思って。この場所を、ツアーを通してオリーブを丸ごと体験できる施設にしようと思っています」オリーブの収穫体験をした人たちが一緒にランチを食べ、オリーブオイルをテイastingし、オリーブそのものについて学ぶ。市内では他にない、新しいスポットになる予定だ。



瀬戸内いとなみ舎代表 峰尾 亮平さん

オリーブ栽培を認知から雇用、産業へ

峰尾さんは7年前、地域おこし協力隊オリーブ栽培技術指導員として着任、神奈川県から移住してきた。卒業後、オリーブ栽培事業を主とした「瀬戸内いとなみ舎」を開業、栽培や実を原料とした商品の開発を行っている。「7年経って一番変わったと思うのが、オリーブに対しての認知度。江田島市と言えば、牡蠣とか術科学校とかと同じように『オリーブ』と口にしてくれる方が増えたと思います。今は、オリーブが雇用になって産業になっていく基盤を作る段階に差し掛かっているのではないかと」

オリーブは木に実が成る。野菜などと違い、栽培面積を増やしても収穫量が増えていくまでには時間がかかる。それならば、まずオリーブそのものに興味を持ってもらい、体験や観光分野で交流を広げていくことを峰尾さんは考えた。「商品開発もちろん基本ですが、もっと幅広く捉えて、木とか枝とか、余すことなくオリーブの魅力を伝えていくことを、この施設がモデルとなってできればいいですね」

モニターツアーでは、午前10時から午後3時までオリーブ尽くしの一日を体験してもらった。「単純に楽しい」「オリーブにこんな魅力があるのを知らなかった」などの声をもらったと、嬉しそうに峰尾さんは話す。「ここは『話せる場』なので、オリーブのことだけじゃなく、島についても話すことができる。この島に興味を持ってもらって、1年に1回は足を運んでくれたり、収穫を手伝ってくれたり、他のお店を回ったりしてほしい。人とのつながりがどんどん生まれる場所にしていきたいですね」



取材後、手伝いをしていた仲間が「シティーボーイからオリーブのお兄さんになったね!」と笑っていた。みんなの笑い声が響く光景を見ながら、今よりもさらに多い人数で作業を進める峰尾さんの未来の姿が、私には想像できた。

いとなみ舎や施設の最新情報についてはホームページまたはInstagram [@ itonamisha] から。ホームページは「いとなみ舎」で検索!

ETAJIMA GoON! (ゴー・オン)

市内で活躍する人やお店をリレー形式で毎月紹介。掲載された人が次の取材先を紹介する、「つなぐ・つながる」をテーマにした企画です。A3判(フルカラー)を電子版で見ることが出来ます。

